



中村俊定文庫
文庫 18
636



詩のまじりて 詩をいふは 月子
多中 物々 習事 生涯をいふ
之をいふ 風中 ゆるが いたる かの 日の
名中 といふ 志々 好々 中 統事 中 京
をいふ 小々 昌々 中 眉山 意を
此 吟 意 法 中 小 集 中 序 中
諸 中 中 江 権 中 中 中 中 中
之 中 中 中 辞 中 中 中 中 中

半 俊 白 を と せ け け
是 可 辨 と 安

洛

芦 涯



復之部



五月 古 集 々 々 々	一 里 以 来 々 々	自 下 々 々 々 々	山 々 々 々 々 々	吹 々 々 々 々 々	々 々 々 々 々 々	々 々 々 々 々 々	々 々 々 々 々 々	々 々 々 々 々 々	々 々 々 々 々 々
江 戸	和 品			江 劬	豊 前	筑 前			
成 美	可 翠	羊 夫	丈 光	可 昌	南 明	麻 鸣	蘭 更		

其花をの爪取りく 文衣ビ 加菊
朝の露も集まハ女の心も哉 百池
露の心を引かすく 曙鏡 曉臺

幸有花取者子孫

山花 竹西

池を代く 雙の漣 眉山

腹を代く 生著をく 莞尔

子孫の名を呼ぶと 奇峰

行折戸おまは 月子引 舍丁

巾伐かふ 五筍

又さし竹の 蜀花

人猫まそ 白黛

流るるま 眉山

いつく眉子 兩

けろろ花 蜂

むー衣の 尔

二里を 省

人々を 丁

以て様々著しく行はる

花を懐中箱に詰めし

雛のふりしとてお活代と足し

雛飾りしとてお雛の

唯一社の規矩を

海軍の武文を

撰去ふき傘並に花を

結成するを正しく

ふりしとてお雛の

雛

花

西

山

尔

峰

丁

箱

花

人を容れ大工を

懐中箱に詰めし

星文の巻道に多葉子

を詰めしとてお雛の

ふりしとてお雛の

泥を詰めしとてお雛の

ふりしとてお雛の

多場山歌と侍の歌を取

山

西

峰

尔

箱

丁

花

雛

花

山位也二日此月平秋の瓦

ふてくはるる高花梅柴

結布花袋の中をさすく平

あつちし和し友塵 瓦

くちく碎く筒瓶を子向うを利

出陣をいしく西花日記

何気ふふ匠者子鏡を隠ハと下り

うら花内家ハ田舎花果

紀のふれ苞を宿了あ素 鯉

茶を挽き花冷路日子

むらやめ茶うけし袖花

まきふ法とまらハ志をうき

知る志やま花神や結之は毛髪

漆纏みしん高花やうん

おん人の助直格平月うきや

花をま手く平白栢子と書

蜂の菓子酒ハ餅子うき

秋色瓦うけ ち 花

山 涯 更 山 涯 更 山 涯 更

蘭 更

芦 涯

眉 山

更

山

涯

更

山

涯

我里ハ々々平太子と云ふに云ふ

其々も無事也船釣中出

焼火子此の多之候 矢作何々

飛々々々々々々々々々々々

近所の事々々々々々々々々

油を飲一々々々々々々々

何々々々々々の際々々々々

手長湯とハ月々々々々々

焔子に云々々々々々々々々

更

山

涯

更

山

涯

更

山

結々々々々々々々々々々々

東井宮ハ々々々々々々々々

異人々々々々々々々々々々

何鳥々々々々々々々々々々

大穀様々々々々々々々々々

粟板の束々々々々々々々々

船々々々々々々々々々々々

字々甲々々の花々々々々々

承塵下々々々々々々々々々

更

山

涯

更

山

涯

更

山

秋之部

秋の夕立の音に及ぶ哉

及 鷗侶

菊の白き花の香に及ぶ

可 声

松の葉の音に及ぶ

城 松風

月夜に及ぶ

江 暁宇

梅の花の香に及ぶ

梅仙

古の歌に及ぶ

了歌

湖の静けさに及ぶ

筑 湖桂

山の日影に及ぶ

播 鷗山

秋の夕立の音に及ぶ

能 珠ト

丁字の音に及ぶ

加 巨井

馬の音に及ぶ

馬伊

真夏の夕立に及ぶ

真夏

水に及ぶ

壁 水

花の香に及ぶ

i 其成

嵐の音に及ぶ

嵐月

片甲也雪白月花半くくまの

眉山

海をくくまの枯葉の

文花

うんれ車に膏油一洗きて

羊子吹くせ是にほれく

山

鹹き入江中一月花名をくく

番をくく一を下冷くか

花

秋を半くくけ法ゆの夏長く

冬を半くくやむ段え花微

山

黒髪花緋子くく一草花法

花

人くく花一草花法ま

山

袖をくく花ゆゆくあ片うん

花

身はくくくく花接ま

山

くく花くく草花えくく花味

花

くく花鎌くくくく花ま

山

一ツ花をくく生くく古井角

花

酔う花葉のくくくく花

山

そくくく人くくくく月くく

花

くくく謝公くくくく

山

縁12のむく矢をほろりん萩まもと

砂地ふ里をさきまきわさき

きくく日あつた花泪ちり

ゆくのわさききききき

やうき花會もはなまき封一止

暮れれを音年音聞き一る

折免ぬり田にわし長子片ふりぬ

禪花をん年首も泪、踏

乃々平細き花非也近々ん

山花山花山花山花山

長ゆききききやうき月

芦舞と共子敷をかきぬ

海さきくく花秋ハハ花色也

中へん訟とけし酒沽中

双ゆき花 輝 家と徳女片

吹くく手宿ハる花 圃年

花のま下句つとわし一を

さびのく美あうなま帖花 祝 柳

素玉を色 花止し我くうま

山、山、、花山花

夕之部

大けりや此のしるれめ市女女列 楊英

遥題家舟

海子や雪降才と煙くゆく、魯長

多羽年田くくく時く月外、良水

月さし斬平テ草花 乱舞く、梁周

雪多麻行くをねえきくはこれ 江列 封人

き七月くも也 方編平 留と鳥 蘭社

皮剥の赤穂子 咲くくくきの梅 備後 梨陰

撰層子さくまをとまき糸の奈北 土芝

芥火を降かくくくくきの雪 何笠

くくくくくくくくくくく 上毛 朔宇

かひ極き山さかりさく白あつ 洛 得終

緋派迄の日はくくくくく 備後 縮井

之麻や若眠く麻せおを月 川岸 若翁

葦桶子移くくくくく 越中 壁斗

お雪や互層めくくく 上毛 龍山

砂奥の寄了本歌も飛くて冬の日

西湖

一之

嵐完、はへと校々〜追 儼

千羅

ヨミエテも丑の寅を乞了取、うみ

蘭侯

紙衣をよこ人も出入りや東借家

自突

なまは〜度もきれ〜み世由

器量

地をけしりも死し床敷るる茶北

二浪

凍る取を禱の力は 鍾より又

葉雨

作向ハ星〜を〜橋子北上

分雄

相火桶 ちあ字 北さ〜うあ〜

播及 青蔭

鉄籠の是平あ〜とと葛うふ、梅東

なまは眼の屋花子おのち場北、一鳥

節季〜や屋こつとんめさ〜け、葛〜

井北も〜やあせよ北〜水、古音

さき〜北物あ〜う芥川 越前 五鼎

山陰や何と見片〜屋北面 加賀 急文

ふみ路めむ勢の見中清取越、魚春

〜の〜白〜〜角〜茶 長列 薰里

〜や〜賦見〜ゆ〜姉の〜 洛 芦涯

之蜀也必多毛 此情何事 洛 冠外

瞬八や高平 訪ゆく少北車 蓮車

近江屋下 伊勢玉傳く夷海 乃中ん

此もも〜〜 百々 伊勢之 車 蓋

ゆふ子多 此も〜〜 冠山 洛外 甲及 可都里

京子多 冠山 洛外 眉山

鳥免房眉山 冠山 洛外 眉山

路を山平 冠山 洛外 眉山

は〜日野山 冠山 洛外 眉山

柳花 咽 冠山 洛外 眉山

血をば〜 冠山 洛外 眉山

き〜 冠山 洛外 眉山

〜 冠山 洛外 眉山

〜 冠山 洛外 眉山

出沒無常
其性如風
不可捉摸
此乃真諦
不可思議

醍醐

百哺

寬政元酉仲冬

